

NEWS LETTER vol. 11 <2008年2月号>

■【トピックス】

米国大統領選！



サブプライム問題で揺れる米国ですが、今年は大統領選挙の年でもあります。

すでに予備選挙では、民主党のヒラリー氏とオバマ氏との対決で序盤から盛り上がっています。

初の黒人大統領か、はたまた女性大統領か、世界中が関心を寄せています。

世界唯一の覇権国家である米国の大統領がこれほどオープンに選ばれることを、わが国でも見習ってほしいと思うのですが・・・

■【ビジネス・アイ】

月次決算（その2）

社長 「12月の月次決算が、今期最高の売上だったのに赤字だったんだよ」

花野 「そうですか。冬の賞与が響きましたね」

社長 「今年の冬の賞与は、これまで成績が良かったので、それにともなって去年よりは多かったんだけど月次で赤字になるとはね」

花野 「賞与のように、一時に支払う費用を、支払った月だけの費用としていますと、今回のようなことがこれからも起こりますね」

社長 「それじゃ月次で利益管理ができなくなっちゃうよ。なんかいい方法はないの」

花野 「ありますよ。一般的には賞与や減価償却費など決算の時や年に2回とか3回とか発生しない費用については、月割りで計上します」

社長 「月割りで計上するのか。それはいいね！でもいくら支払うか分からないのに、どうやって計算するの？」

花野 「普通は、予算で計上した年間の金額を、12等分して毎月計上していきます。たとえば、年間の減価償却費が1億2千万円なら12ヶ月で割って、毎月1千万円ずつ計上します」

社長 「なるほど、そうすれば良い訳か。ということは、予算を作る段階で、キチンと将来の見通しをなくちゃいけないということでもあるんだね」

花野 「そういうことになります。計画→実行→チェックというサイクルですね。これが経営の基本になりますので」

■【今月のキーワード】

月次引当

月次決算をしていると、ときどき大きな費用が発生して損益が大きく振れるときがあります。

普通は、夏や冬の賞与を支給したときに、支払った時の費用として処理している場合に、そうなることが多いです。

ただ、賞与などは支給対象期間があつて支払った時だけの費用とすること自体が、実体に合わないところがあります。

このような費用を毎月一定額、仮に計上して月次決算を行なうことを月次引当といえます。

■【今月の1冊】

『社長！儲けたいなら数字はココを見なくちゃ！』

小山 昇 著 すばる舎

¥1,500

現役の社長である著者が実体験からの会計の使い方を指南しています。そのため、各所に著者自身の失敗例も赤裸々に明かしています。

京セラの稲盛氏の『実学』を読んだときもそうですが、優秀な経営者は、会計に強いことが分かります。

ただ、理解するだけでなく、使いこなしています。経営者にお勧めの一冊です！



■【編集後記】

いつもこの時期になると憂鬱になります。今年は昨年の夏の酷暑により、花粉の飛散量が去年の2倍になるらしいのです。

そうです花粉症です。これからはばらばらは、薬とマスクにご厄介になる生活が始まります。

『NEWS LETTER』vol. 11（毎月1日発行）

●定価：2,400円/年 ●発行日：2008.2.1 ●発行人：花野康成

●編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦丸ビル5F

TEL.052-205-6361 FAX.052-204-8808

<http://homepage3.nifty.com/binspire/>